

自 己 評 価 票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

【自己評価の実施方法】

- 運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業員と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください
- その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
- 優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1 理念の共有	3
2 地域との支えあい	3
3 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4 理念を実践するための体制	7
5 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入年月日	平成 21 年 3 月 3 日
法人名	有限会社うらら
代表者名	松谷由美子
事業所番号	2 7 7 2 4 0 2 7 4 5
サービスの種類	認知症対応型共同生活介護
事業所の名称	グループホームうららの家
記入者名	矢田千加子
所在地	大阪府枚方市村野東町10番35号
電話番号	0 7 2 - 8 0 5 - 5 6 6 0
F A X 番号	0 7 2 - 8 0 5 - 5 6 6 1

自己評価表

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営			
1 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		グループホームが施設でなく、利用者さんが選んで住み替えた居宅であるといことを訴えていきたい。
2 地域との支えあい			
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている		
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		夏祭り時の、近所の子供へのゲーム券配布など継続し、一層交流を図る。管理者の父母の協力も得て、老人会との交流も。
6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		夏祭り・クリスマス会等の行事に、全職員の知恵と力を出し合い地域に根付いたホームであるべく努力を続ける
3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		評価の項目を理想として捉えるのではなく、努力目標として、厳しく自己反省していきたい
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		クリスマス会に招待状を送ったが、地域の他の行事と重なって、参加してもらえず残念だった
9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している		レジメを作り、資料を集めて学習しあった

([] 部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		職員同士が本音で悩みを打ち明けることのできる関係であるよう、家族が本音を訴えることのできる職員集団であるよう努力していきたい
4 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○	長生きしたい、楽しく生きたい、尊厳を認めてほしい、その思いを受け止められる余裕を持つ自己修養を積みみたい
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている		行事や、日常の様子を写真掲示コーナーに掲げ、来訪時に見て貰っている
15	○ 運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		共に一人の認知症の方を支えるという連帯感の上に立ち、互いを思いやる関係であるよう力を尽くしてきた
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		個人的にいけない事でも会議の中では言えるので、言いたいと言いつつうようにしている
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている		シフトが、週により変更されると、忘れやすいので、なるべく固定的にし、職員体制を充実させている
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	○	被害妄想的になると自分が損である。ある程度鈍感であることの大切さを、高齢の職員が身を持って示せることが、何よりのスーパービジョンであると思う
5 人材の育成と支援			
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		技術的なことは互いに教えあっている
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		交流会・研修会を通じ地域の同業者との意見交換・実践交流の機会を持っている 一人が知り得た情報は会議で報告しあい、みんなで学習し合っている

() 部分は外部評価との共通項目

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる		休憩時間を確保している
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	いろいろな施設を経た上で、入居する人、家庭でも、家族間の軋轢を経験した人、独居の不安な人等、それぞれの思いをよく傾聴して、聞いてもらった安心感を持って、ホームの生活に入ってもらっている	入居当初は、絶え間なく、話し続け周囲を困惑させていた人でも、一定期間話を聞いて貰うと落ち着いてくる
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族が認知症を受け止めるまでの困惑・懊悩に共感し、他人に介護を委ねる事への迷い・悩みを経ていることを理解し、その経過を聞き取り受け止め安心感に繋げる	家族の話を傾聴しながら、利用者の生活暦の把握をする
25	○ 初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問介護、短期入所なども含め「その時」にどんなサービスを必要としているかを見極め相談に乗り最も安心し、納得できるサービスの形態を選択してもらっている	
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	夏祭りなどの行事に参加して、見学もかねて、施設の生活を一時的に体験してから入所した人もいる。長年馴染んだ生活から離れる抵抗感を十分理解して対応する	高齢になるほど環境変化に対応する力が弱くなる、ということを十分認識して、暖かい対応をする

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長い人生を生きてきた方への敬意を忘れることなく、共に生活を作り上げていく関係にあることを思い、接している。特に、高齢の職員には、自らの行く道を照らす燈火でもあることが、実感される	○ 丁寧語で話す
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者さん本人を中にして、家族と職員が、共に協力する関係であるよう努めている。家族との話の中から介護のヒントを貰い、また、ホームでの様子を伝え配慮すべきことを共に考える事もある	どんな認知状態にあらうとも、家族にとっては、長い歴史を共にした、大切な人であることを忘れない
29	○ 本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	物盗み取られ妄想を家族に向けた利用者には、心情的安定を促す接し方をすると共に家族の要望に応じ目前で支払いをして貰うなど家族の苦労も知って頂く工夫もする	外泊時の連携 体調・服薬 食物形態など
30	○ 馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	近隣の人や友人などの訪問を歓迎し、馴染みの関係が保たれるように、孤立感を持つことのないようにしている	電話連絡や文通の支援をする

([] 部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		よくお世話をし、快い生理状態であってこそ、周囲との関係性が温かく広がるもの、という認識の元で介護に当たっている
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		外出したい場合はホームの車で同行している
34	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		基本情報シートを作成し生活歴、サービスの利用状況、その際の様子などを把握している
35	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	出来る事できない事を見極め安心な生活を支援すると共に、生活の中でのリハビリも大切にする。

2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	職員会議の中で出た意見を、介護計画に組み込んでいく力量を高めるよう、絶えざる自己研鑽を積んでいく
37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている		
----	--------------------------------------------------------------------	--	--

4 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している		地域のボランティア団体が訪問して下さり、歌・踊り・トークで利用者さんを喜ばせてくれている
----	----------------------------------------------------------------------	--	----------------------------------------------

(部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項	目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護度の高い人も多く、又利用者さんの個性がおとなしく人見知りが強い人が多く難しいが地域の相談員の来訪を受け、話を聞いてもらっている		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市のケアマネ連絡協議会主催の研修には必ず参加し、実践交流も行い地域包括センター職員の指導アドヴァイスも受けている		
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導をお願いしている医師のほかに、利用者さんの継続的かかりつけ医との連携も大切にしている。		病状によってはより専門的な病院を嘱託医から紹介していただき受診している
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	地域の心療内科のドクターとの連携や、入院先のドクターとの話し合いを、管理者が丹念に行い、診断治療がより適切に行われるように努力している		
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	居宅療養管理指導のドクターに同行してくる看護師から、助言を受ける。又訪問看護の看護師が前もって体調を電話で尋ねてから来訪し、相談に乗ってくれている		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時には、職員がお見舞いする他、管理者が頻繁に病室を訪れ、声掛け、励まし口腔ケアをして、できるだけ早期に退院できるように力を尽している。又、入院先の医師、看護師とも十分話し合っており、意思疎通を図っている		酸素吸入を続けていて悪化し、チアノーゼになり入院したが、医師の適切な処方により、予定していたペースメーカーも入れず退院できた方もある
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについての研修を受け、職員会議でも意思統一を図り、ターミナルケアに大切なのはやりきる意思と熱意であるとの総意に至っている。重度化した場合は家族との話し合いの元、看取りを一任する旨委任状をもらっている		グループホームとしてのターミナルケア規約を作成している
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	介護の度合いが高くなってくる利用者さんもあり、日中の様子、観察・夜間の巡回を密に、状態把握に努め、変化が見られた場合は、主治医に連絡し、指示を受け適切な医療につなげている。ターミナル期の受け入れが必要になる場合を想定して、職員間の学習意思統一も行っている		
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から入居してくる利用者さんには、入居に至るまでの経過・生活暦を聞き取り、情報交換し、できるだけ、住替えのダメージを少なくする努力をする。入居当初には帰宅願望が出て不穏状態に陥る場面もある		

(部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	---------------------------------	--------	----------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分がしてほしいことや、言われたくないことを、利用者さんにも言わない、しないということを基本において、対応している。プライバシー保護を大切にしている	○ 親しさの仲にも、礼儀をわきまえた対応を、今後とも心がけていきたい
51	○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	記憶が崩れていく不安、悲しみを十分理解し、その寄り添いを受け止める姿勢を持ち、根気よくコミュニケーションを続けていきわかる力を感得し、働きかけの方法を学び、職員同士で教えあう事を大事にしている	○ 説得ではない納得を、ということを中心に基本において接していきたい
52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いろいろな精神・心理症状を現出させる利用者さんの行動に対応する難しさを感じつつ、寄添う介護、相手の思い、ペースに合わせた支援になるよう心掛けている。忙しい時ほど丁寧にをモットーとしている	○ 利用者さんが、グループホームを「私の家」と思ってもらえる場であるように、頑張っていきたい

(2) その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援

53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員と、馴染みの床屋に出かける人、家族が美容院に同行する人、職員が得意の技でカットしてあげる人など、経済状態などに応じて対応している	「べっぴんさん」「男前」とほめられるとニコニコされる。リップサービスも元気の元！！
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、食器並べ片付けを一緒にしているが、包丁を使うなどの調理はできていない。鍋物・たこ焼きを一緒に作ることを楽しんでもらっている	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	タバコを健康のために止めて、そのお金で本を買ったり、宝くじを買ったり、仲間のみなさんにおやつを買ってきてあげたりする人もいます。	○ 職員に作らせたコーヒーを、居室内の冷蔵庫に入れて飲んでいる人もいます。夜間譫妄には温めたポカリで電解質補給
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、気持ちよく排泄できるように支援している	シルバーカーを押してトイレへ行く人、夜だけ室内のポータブルトイレを使用する人等、なるべくおむつの使用を控える。態度や表情から尿意を察知し、トイレ誘導する	○ 陰洗を丹念に行って、いつも気持ちよく過ごすことができるようにしている
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大枠は入浴の順番を決めているが利用者の体調・希望により変更することも多い。冷えやすい人、腰痛・膝痛のある人には特にゆっくり入ってもらっている	○ 「お湯はぬるい?熱い?」と必ず聞いて快適に入浴してもらうようにしている
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	朝の体操や食事のときは全員が原則リビングに集まるが、その他の時間は、一人一人の体調気分、に合せて居室で過ごす時間も大切にしている	○ 傾眠傾向で食事中に眠り込む人、夜中眠れず夜勤者相手に、若い頃のアルバム・表彰状を披露する方もある

(3) その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援

59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「チャンバラ大好き」と居室でテレビを見る人「本なら全部好き」と読書する人、携帯電話で子供と話す人、など各自、自分の時間を楽しんでいる。カルタも「江戸昔カルタ」「トトカルタ」など揃えている。	○ トランプの7並べの際何回パスをしても「パス3回」と言う人にリード役のおじいさんが笑いながら「いいわ」と受け入れる姿も
----	------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------

(部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	それぞれ認知状態によって、お金を自己管理している人や家族が全く渡していない人などある。小遣いで、宝くじや必需品を買いに行く人には付き添っている	
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・外食・理美容院・宝籤購入散歩など管理者がホームの車で外出支援をしている 正月には隣町の神社へ初詣した	○ 暖かくなったら、車椅子での散歩も楽しみたい
62	○ 普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中から思い出の場所に行きたいと思っている場所を知り、管理者が個人的に案内したり、希望の映画と一緒にいたりした	大阪城公園へ行く 外食をする 映画「私は貝になりたい」を鑑賞する
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	携帯電話を持っている人は、よく家族などとやりとりしているし、もっていない人は、希望した場合は、手伝いながら連絡を取り合っている	
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	介護計画にも、家族などの訪問を歓迎することの大切さを挙げており、支払いも手渡しにして、最低月一回は、訪れてもらうようにして、居室でゆっくり過ごしてもらっている	誕生日に家族と外食する方、母の日には花束の届く方など、職員も深く謝意を表している

(4) 安心と安全を支える支援

65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の条項となる行為は理解しているが、安全確保のためやむを得ぬ場合もあり、一時的に介護服を使用したこともある	
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないケアの大切さは理解しているものの、安全確保のため、共用スペースの出入り口や階段の上には鍵を掛けざるを得なかった	
67	○ 利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	日中居室を訪れる時には、必ず声かけ、ノックしてから入室し、夜間は、眠りを妨げないように静かに巡回して、体調・安全の確認を行っている	
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	それぞれの認識の程度により、裁縫道具や、血圧計、体温計等自室に保管している方もある。危険の予測できる方には、家族の了解を得て、預かっている	筋肉痛の売薬を自室に持っていた重度の認知症の方があり、多量に飲む恐れもあり預かって家族の了承を得た
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一般的危機管理の知識の上に、利用者さん個人の器質的、機能的認識的能力を把握したうえでの個別の配慮をしている。環境整備も大切にしている	パーキンソン氏病によるすくみ足など病気特有の症状による危険の把握。服用薬によるふらつき転倒危険の把握。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ等の技術や誤嚥時の対応の周知徹底を図ると共に、体調の変化を見逃さない観察力と職員間の連携を大切にしている	管理者とその親族がすぐ近くに住んでいるので緊急時には駆けつけて貰うことができ心強い

([] 部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		職員が利用者さん役をして避難訓練を行った
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	○	いつ何が起こっても不思議でない年齢であることをわきまえ、巡回を怠らないようにしている

73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		報告・連絡・相談を徹底し、独りよがりにならないようにする 認知症の人は自己の体調を正確に表現し難い
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている		
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		病状特有の痛みの訴えが、高齢者には顕著に現れ難い事に配慮する。 毎日の体操を皆さんが楽しみにしている
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている		歯の丈夫だった人が、高齢になって初めて入れ歯をすると、慣れるまで我慢できず、外してしまうので困っている
77	○ 栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		食後のお茶の全量摂取 入浴後の水分補給を徹底した 嚥下状態に合わせて刻みつぶし食など選択している
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ・疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		感染症マニュアルを作成した 利用者・職員の使い捨てマスク使用
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		

2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		ごみは多量になるので業者に回収を委託
----	-------------------------------------------------------------------------------	--	--------------------

([] 部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		床のオスバン拭き。 排泄物は塩素系消毒剤使用
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		行事の時には一階のフロアを使用している
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		衣類など、目の前に沢山無いと安心できず、散らかす人もあり、つまずいて危険なので、適時片付けている
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている		全利用者さんが自由に自室の温度調整できるようになっている 電気代も大変だろう

(2) 本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○ 身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している		ちょっとした故障、設備など、管理者の父上が、親身に、迅速にやってくれるので、大変ありがたい
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	○ 建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		プランターの水遣りなど続けていても、突然の介護度上昇により、出来なくなった方もをり、残念だった

V サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に ○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼすべての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごさせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができています。	○	① ほぼすべての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、広がったり深まり事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入して下さい)

利用者が求めていることが本当は何なのか、それを言葉の端々から察知する、そして迅速に対応することができている。たとえば「正月一日に何しとったかなー」と繰り返しつつぶやく言葉を聞くと、直ちに車を出して隣町の神社まで初参りに行きおみくじを引き・甘酒・たこ焼を食べるなど楽しい経験を満喫してもらう。映画を見たいと言えば同行し、回転寿司にも皆で出かける。流しソーメンをすると「生きているからこんな楽しいことできるんや」と感激の言葉も出ている